

アドバイスは3つだけ!

昨年「爆発力」を秘めた釣り方として話題になっている「ティップランエギング」。体験したアングラーはその釣れっぷりに驚くのだが、まだまだ体験をしている人は少ない。釣り方は? ロッドは? エギやラインは? 専用のタックルと聞いても何をどうする? いつも使っているロッドで代用できるんじゃないか。通常の陸っぱりや、ボートからのキャストインクを行っているエギンガーでさえ分からないことだらけのティップランエギングを体験してもらうため、ティップラン専用ロッドを船上レンタルし、レンタル専用エギも船に持ち込んでの実釣会を開催した。



2011年9月24日(土) 真珠・牡蠣の養殖で知られる英虞湾に面した志摩半島。フィッシングポイント志摩の乗船場に、私たちスタッフとティップランエギング未経験の参加者6名が夜明け前に集合。谷口船長からの、簡潔的確な射撃手順をアドバイスを受けて、早々に出船。細かいアドバイスは実践しながら行うのが、この釣りには最も合うのだと、後に分かることになる。

谷口船長は船を走らせ、「台風の後、の濁りが入っているのと、潮が動かない。できるポイントに限られるから、時合を逃さず釣ってくださいよ」と言う。乗船場を出て約20分着いたポイントは志摩半島の西端、

イトグループ主催

# ティップランエギング実釣会

報告●フィッシングイチャバン・フィッシングイトグループ

協力●フィッシングポイント志摩(谷口船長) イベント問合せ●フィッシングイト2 072-636-0008

話題の  
メソッドを  
実体験



9月24日(土)、スタッフとティップランエギング未経験の参加者6名が「フィッシングポイント志摩」に集合、実釣会を体験した。

御座神灯台のすぐ下であった。秋イカシーズンということもあり、水深は10〜15m、朝の早い時間はアオリイカはまだスレていないから、初ヒットのために重要な時間だ。

ティップラン専用エギをフリーフール。船べりのやや前方に伸びるラインに、エギの着底を知らせる糸ふけが出るか出ないかで4回のリリング・ジャーク、そして4回目のジャークでティップを止めてアタリを待つ。1秒、2秒、3秒、4秒でティップに変化が出なければ、水面まで巻き上げて落とす。これを繰り返す。

「ボトムをしっかりと取り、ジャークを止めた直後のスナイにアタリが出るので見逃さないこと。3秒以上アタリを待たず、(アタリが)出なければ、必ず水面まで巻き上げること」と、谷口船長のアドバイスはこの3つだけ。

ボトム取りはエギングの基本、そしてジャークをすることでアオリイカにアピールし、止まった瞬間にエギに触れてくるイカのアタリを取るためティップをぶらさない、ティップの動きに集中すること、3秒以上スナイさせることイカがエギを見破り、のちのちの釣果に響くからといったタナから外すために巻き上げる、という意味での3つのポイントであった。

6名で75杯をゲット! 参加者全員、スタッフも含めて陸っぱりエギングを経験者ばかり、中には手練



専用ロッドと専用エギを手持ちのタックルと使い比べ、その違いも実感できた。

のエギンガーもいるというのに、アオリイカのアタリが分らない。3流し目にして、1名の参加者が初ヒット。サイズは小さめだが、ティップラン初アオリだ。ゆるやかな船の動きと同調していたロッドティップが導く動きをして反射的に合わせるところ、ズンと重みが伝わった、ということだ。

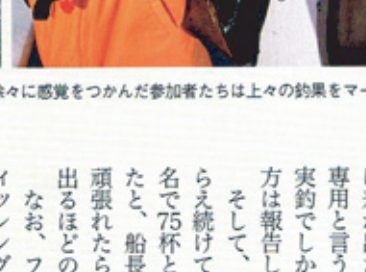
その話を聞いたほかの参加者が、各自のロッドティップに集中したのと言うまでもなく、やがて「チツ」という表現のティップの変化に反応した参加者が船上2ハイ目のアオリを捉えた。レンタル専用ロッドに取り替え、エギのサイズや色を替え、船上は慌たしくなってきた。

そして何度かドラ流しのポイントを入替え、流し直しをしているうちに、ようやく潮が流れだし、風の向きもよくなってきた。途端、自分なりにアタリの捉え方が分かった参加者が次々とアオリイカを掛けていった。ほんのわずかなティップの変化は、人それぞれ違う。ティップが戻るパターンもあれば、引き込まれるようなパターン、一瞬だけ節がついたように止まるパターン。その日のイカの活性やサイズ、潮の状況、タックルセッティングでパターンは均一でない。

それだけで、かなりイカの活性が上がらない限り、「アタリを合わせないとイカが乗らない」のも、ティップに差が出た、アタリの取りやすさは専用と言っただけのことにはある、など実釣でしかわからない差を参加者の方は報告してくれたのだ。そして、専用ロッドでアタリをとらえ続けて午後2時の納半時には6名で75杯と、海況が悪い中よく釣れたと、船長も満足げ。朝方ももう少し頑張れたら3桁いけたなあと、欲が出るほどの釣れっぷりであった。

なお、フィッシングイチャバン、フィッシングイトグループでは、このようなティップラン実釣会を10月に2回行い、店頭での説明会も開催した。新しい釣りだから店頭説明ではわからないことも多い。釣り人(お客様)に伝えていく方法も様々。そう、まるでティップランエギングのアタリのように。だが、よりよい釣果と大きな楽しさを提供するため、私たちは対応し続けています。

秋本番、ティップランエギングは年内まだまだ釣れており、数・型ともに期待できる。



谷口船長のアドバイスは簡潔でありながら的確なもので、徐々に感覚をつかんだ参加者たちは上々の釣果をマークした。

谷口船長のアドバイスは簡潔でありながら的確なもので、徐々に感覚をつかんだ参加者たちは上々の釣果をマークした。